

# Book Review

●ブックレビュー



## 『Pure35歳、女性税理士が産廃会社を東証一部に上場させるまで』

加藤 恵子／著

(幻冬舎・定価1,650円(税込))

この本には、絶対に上場できないといわれていた産業廃棄物処理業（以下「産廃業」という。）を行う会社（株式会社ミダックホールディングス）の東証一部上場への道程が示されている。

産廃業については不法投棄や反社会的勢力に近い業界といったダークなイメージを持つ者も少なくないであろうから、この美しく洗練されたイメージの装丁に驚かれる方もいよう。実は、本書は、産廃業者がいかに工夫をして上場一部にまで上り詰めることができたかというストーリーを単につづったものではない。むしろ、本書は、著者である加藤恵子税理士の自伝であるというべきであろう。その生き方がピュア（Pure）なのである。つまり、この本は、ここまで企業を成長させた女性税理士の物語なのだ。やや古くさいかもしれないが、女性版「どてらい男」だ。

小職が主宰するファルクラム租税法研究会では、毎年合宿勉強会を実施しているが、あるとき、当会のメンバーでもある加藤さんがスポーツカ

ーでさっそうと現れた。なにしろかっちょいいのだ。そういうファーストインプレッションを私に植え付けた加藤さんが、いかに泥臭い仕事もやってこられたのかを本書を通して知ることができた。

本書ではコーポレートガバナンス構築の苦勞が述べられている。経理統括部員に夜食代支給制度を導入し、積極的なジョブローテーションを行わせるくだりである。いわば地方の公立高校球児たちに徹底した指導を行い、「ひたむきに練習」を重ねさせて、「甲子園の切符をつかみ取った」のだ。彼女が社員と苦樂をともにし、高い障壁を乗り越えてこられたのは、これまで税理士として、いくつもの「ぐちゃ先（会計がぐちゃぐちゃになったクライアント）」と向き合い泥臭い仕事をこなしてきたがゆえのものだったのである。上場成功までには、越えなければならぬ多くのハードルがあり、決して順調な道のりではなかったが、「努力と粘り」によって成功へと導くことができたのだ。成功とは、いかに仕事に精力を注

入できるか、いかに誠実にひたむきに努力し続けることができるかにかかっていると再認識させられるのである。

以前、加藤さんと小職の対談（講演）の中で、なぜこれほどまでにミダックホールディングスがSDGsの取組みに積極的なのかを尋ねたところ、産廃業がCO<sub>2</sub>を排出することに対する問題意識が強い原動力となっているとの回答を得た。狭いステークホルダー観ではなく、広い視野で自社の社会的責任を捉えている姿勢を知った。きっと著者の視線の先には目先の収益性の向上などという次元をはるかに超えた視界が開けているのだ。Pureな女性税理士はさらなる荒野を目指すのであろう。

本書は、単なる税理士の苦勞話や成功話の域を出て、これからの専門家の生き方にも多くの示唆を与えてくれるものと確信する。そして、多くの人に「ひたむき」に努力することの本当の意味を教えてください。くれるものであると思う。

(評者／中央大学法科大学院教授  
酒井 克彦)